

2006年11月22日

日本地質学会 会長 木村 学

2006年度第6回理事会 議事録

期 日：2006年11月11日（土）12:00～15:30

場 所：地質学会事務所

出席者：木村会長，伊藤副会長，佃副会長，渡部常務理事・大友・狩野・公文・倉本・高橋・中山・久田（3時）・宮下・向山 各理事，橋辺（事務局）

欠席理事：（委任有）天野副常務理事・Wallis・上砂，（委任状なし）増田

* 成立員数(12 /17)に対し，出席者 13 名，委任状 3 名，欠席者 1 名で，理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，大友）

総務委員会（委員長-上砂）

庶務関係（担当理事 上砂）

- ・日本アイソトープ協会より，「第44回アイソトープ・放射線研究発表会」（07年7月後開催）の共催および運営委員の推薦依頼があった。メール審議の結果共催を承諾し，運営委員として，本人の承諾を受けて小笠原正継会員（産総研）を推薦した。
- ・「わが国における海洋研究船のあり方に関する提言(案)→文部科学省宛」（同シンポジウム，ワークショップ世話人）に対するアンケート →木村会長が検討し，対応をすることとした。
- ・天文教育普及研究会では，「天文教育施設に対する指定管理者制度導入に関する声明」を出した。
- ・学術著作権協会より平成16年度複写使用料の分配（58,701円）決定の通知があった。分配金の中身：協会取り扱い分，日本複写権センターへの複写許諾委託分の分配金，米国CCCからの使用料などの合算
- ・出版著作権協議会より平成16年度複写使用料の分配(23,000円，12月末送金予定)通知があった。分配金の中身：日本複写権センターへの複写許諾委託分の分配金
- ・学術会議会長，副会長交代の挨拶：新会長 金澤一郎，新副会長：浅島 誠・鈴木興太郎，土居範久

会員関係（担当理事 中山）

1) 入会の承認

正会員(3)：藤田 宏，鈴木孝弘，佐藤陽一

2) 10月末現在会員数

賛助 34，名誉 75，正 4484（内，290院割），学生 42，合計名 4,635（昨年比 -137）

3) 名簿発行のアンケートを選挙の通信に同封し全会員に配布，締め切り12月22日。

関連学会連合（担当理事 天野）

- ・地質科学関連学協会連合
- ・自然史学会連合
- ・地理関連学会連合

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

- ・連合の運営会議は、日本学術会議地球惑星科学委員会に対し、連携、協力、支援のもとでの、5項目の検討事項を要望した。（→ 資料参照 p. 1-3）
- ・地学教育問題検討委員会から地学オリンピックについての情報（→ 資料回覧 ①）引き続き情勢把握に努める事とした。

学術会議関係報告（木村会長＝連携会員）

- ・第3部地球惑星科学委員会組織図，連携会員名簿，分科会名簿（→ 資料参照 p. 4-8）

会計関係（担当理事 向山）

広報委員会（担当理事 大友）

ニュース誌編集小委員会（担当理事 大友）

インターネット運営小委員会（委員長-坂口）

- ・新しいHPのたたき台作成，動作確認，改良作業中。
- ・サイト案（木村会長案）（→ 資料参照 p. 9-10）
- ・四役会議メモに基づいて議論
日本一、世界一の情報発信HPを目指す（イメージの例：GSAのページ）

2. 学術研究部会（部会長-久田，公文，増田）

行事委員会（久田委員長）

- ・東北支部長および秋田大学地球資源学科長に対し、2008年度の年会引き受け依頼状を会長名で出した。鉱業博物館長，教育学部所属の会員にも協力要請をした。（→ 資料回覧 ②）
- ・札幌大会について（→ 資料参照 p. 10-14，審議事項へ）
- ・2008年，岩鉱学会との共催については，板谷会長から検討に入るとの連絡を受けた。
- ・高知大会の発表において先取権に関する事例が発生したが，当事者から円満に解決したとの報告を受けた。

専門部会連絡委員会

国際交流委員会（公文 国際特任理事）

- ・国際戦略について
日韓交流分科会：
 - ・韓国地質学会への会長訪問を受けて、来年の大韓60周年への参加も要請された。これにも向けて、協力体制を学会内に作るべき。日米（GSA）交流：
 - ・佺副会長より、GSAのアジア拠点構築への要請通知、GSA会長より学会へレターの発送予定。学生の交流派遣などが想定。学会としては、HP作成や学会諸活動運営に向けた意見交換などを含め、積極的に対応する方向で、かつ慎重に検討を継続する。タイ地質学：
 - ・会長より、雑誌交換の開始と、来年度の地質学会長招待についての打診があり、今後の両国間交流についても検討を始めることとした。今後の展開：
 - ・各国とのパイプを持つ会員からの情報を集約しておき、引き続き二国間交流の構想を提案していく

南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）

地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-吉田英一）

3. 編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野 副委員長-久田，宮下=企画担当）

- ・ 今月の編集状況は以下の通りです（11月9日現在）。
112-10：論2・短報3・口絵1。（42p）発行済み
112-11：日高帯特集号（1） 論説6 口絵1（85p）校正中
本年度投稿論文数 91 編
[論説60（和文54・欧文6），総説4（和文4），ノート3（和文2・欧文1），
短報21（和文21），討論3（和文3），] 口絵8（和文5・欧文3）
投稿数昨年比 +12 査読中 56 編
- ・ 日高特集号は11月号で出版予定
- ・ 電子投稿システムの画面の説明を会員向けに News 誌 11月号に掲載予定。
投稿システムの来年1月号からの運用に向けて、投稿規定を一部改定（→ 資料参照 p.15）
基本的には電子投稿に対応させるための変更と、掲載ページ数上限を編集委員会が許容
変更できるようにするための修正で、理事会はこれを承認し、直ちに新规定の施行に進
むこととした。

Island arc 編集委員会（担当理事 Wallis，事務局長 竹内圭史・角替敏昭）

【編集状況】

- 受理済み： 17 編（Miyazaki 特集を含む）
- 作業中（電子投稿システム導入前の投稿）： 9 編
- 作業中（電子投稿システム導入以後）：16 編
 - ・ 特集の提案：板谷徹丸（岡山理科大）12～13 編の投稿を予想。
 - ・ 電子投稿システム運用開始後半年で、同システムによる初受理論文が出た。

【Ophiolite Virtual Monograph】（→ 見本回覧 ③）

前回報告した、Ophioliteに関する論文の Island Arc virtual Monograph が完成した。
Citation の多い論文2編及び preface は free access でき、ダウンロードも可能。
右記の URL 参照。 http://wip.blackwellpublishing.com/iar_vi.asp

【アイランドアーク論文研究成果プレス発表のお願い】

氷期に形成されたサンゴ礁を沖縄で確認したという内容の論文について、プレス発表の要
請を理事会に提出した。すでに著者らの了解は得ている。 Island Arc vol.15, no.4 掲載
Sasaki, K ほか論文について。（→ 資料参照 p.16，審議事項へ）

Island arc 連絡調整委員会（委員長 会田，担当理事 Wallis）

- ・ Island Arc の 2007 年契約更新に伴い、契約書案の再検討事項について BP 社と協議し、契
約年限を2年にする事、年度をまたぐページの貸し借りを可能とすること、が了承され
た。（→ 資料参照 p.17-18，契約書修正版回覧 ④）
- ・ 科研費の適正な執行状況に関し学振は財務省の指摘を受けた。それに関連し補助金受給団
体に対し、過去10年間に科研費が交付された出版物についての発行部数、印刷経費、在庫
数、廃棄数などのアンケートがあった。また、科研費の適正な執行等の説明会も開催され、
今年度の実績報告ならびに来年度の計画調書の提出に際しては、これまでより詳細な報告
や会計書類などの提出が求められることになる。（→ 資料参照 p.19）
- ・ 理事会としては、来年度申請に関して、来年度要求から根拠有予算のみで積み上げ直す基
本方針、その場合、補助金額は減額になる見込み、を了承し、次回理事会に、来年度申請
の骨子を事後報告いただくこととした。

企画出版委員会（担当理事 高橋）

4. 普及教育事業部会（部会長-高橋，倉本）

地学教育委員会（委員長-阿部国広）
・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」
生涯教育委員会（委員長-柴 正博）
地質基準委員会（委員長-新妻信明）
地層名委員会（委員長-天野）

5. その他

支部長連絡会議（担当理事 伊藤）
地質災害委員会（担当理事 天野）
JABEE 委員会（委員長-福澤仁之）
技術者継続教育委員会（PDE）（委員長-公文）
ジオパーク推進委員会（担当理事，佃委員長）
・10月19日に委員会を開催。
・来年の札幌大会において，準備委員会と協力してジオパーク普及のシンポジウムを開催する予定。市民講演会「地質でまちおこし-ジオパークの試み-」として科研費，研究成果公開促進費Bを申請する。（→ 計画調書回覧 ⑤）
→理事会として了承した。

【以下，評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）
女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長-大友幸子）
法人化実行委員会（委員長-齊藤靖二）
齊藤委員長よりの報告を受け、審議事項で審議した。

法務委員会（担当理事：委員長 上砂）
・倫理規定策定委員会（委員長-松本 良）

オンライン化委員会（委員長 齊藤 眞）
・札幌大会の登録システムについて，今年の実験を踏まえて行事委員会と検討中。
（→ 資料参照 p. 13-14）

選挙管理委員会（委員長 関 陽児）
・代議員選挙の立候補受付が締め切り後，11月1日に選挙管理委員会を開催した。
・全国区，地方区とも定数内人数の立候補者であり，全員が無投票当選となった。ただし，全国区については，細則に従って評議員選出のための投票を行う。（→ 資料回覧 ⑥）
立候補者数 全国区 49名，地方区 49名（関東地方区-1）
・評議員選出のための投票，11月15日から12月15日まで。
・理事選出のための立候補，投票による選出を1月末までに行う。
・これにより，理事をのぞいた代議員の上位から全国区評議員が抽出される。
→従って，最終的な代議員・役員選出者は，来年1月末に確定する。

6. 4 役会議審議内容

・10月14日審議メモ（→ 資料参照 p. 20）
・11月11日審議内容
1) 札幌大会について，2) アイランドアーク科研費についての対応，3) 法人化について，4) 情報化について，5) 国際戦略策定，など

<次回以降の理事会開催予定>

06年12月16日（土）10：30-12：00 東京 北とぴあ 701会議室

07年 1月13日(土) 12:00 - 17:00 学会事務局 予定

<次回以降の評議員会開催予定>

06年12月16日(土) 13:00-17:00 東京 北とぴあ 701会議室

07年 4月7日(土) 13:00-17:00 東京 北とぴあ 901会議室

○審議事項

1. 法人化の件 (→ 資料参照 p.21-28)

これまでの文科省との折衝から退くことはせず、引き続き現行法体制の下での法人化を目指すことを基本方針とすることを再確認した。

2. アイランドアーク掲載論文のプレス発表の件

広報委員会にて通常の手続きで扱うこととした。プレスに必要な体裁調整などは直接広報委員会が連絡を取って行う。

3. 日韓交流および国際委員会について

報告事項の議論の後、具体的なプリンシプル、アクションプランの設定の後、来年四月のMOUを目指すこととした。そのために日韓交流委員会を国際交流委員会の下に設置。交流の盛んな会員から委員長を公文理事が推薦し、評議員会で設立承認を諮る予定。

4. 札幌大会について

以下の四役提案について審議し、理事会として進めることとした。

1) 就職支援 Job-seekers のためのブース設置: 札幌大会を機に開始できないか? 全地連、北海道の地質コンサルタント業界との連携。長期的には、地質、地球科学職域の拡大(地学教員の増大を含む)を目指す。これは、理事会活動。

2) 大学単位の“自己宣伝”(大学ブース)と地質学会員の交流拡大:

地質学会 Alumni のような企画が北海道大会からできないか? 北海道支部との協議

3) 高知大会に続き大会ポスターの作成を提案し、これを定着化するとともに、札幌大会のイメージ・フレーズをつくる事を準備委員会に提案する

4) 巡検案内書に続いて要旨集 CD 化を行い、大会運営の定常的方式を作りあげる。

・これらを含めた準備態勢を行事委員会、準備委員会、理事会等で仕分けを進めておく

・北海道大会の準備委員会関係者と学会理事会の事前打ち合わせを12月2~3日に予定する。参加者は北海道側7名(岡田委員長、竹下事務局長、宮坂支部長、西委員、前田委員、新井田委員、中川委員)に対し、理事会側5名(木村会長、伊藤・佃副会長、久田行事委員長、宮下理事)の予定

5. 2008年の年会共同開催(岩鉦)について

・秋田大会自体の開催場所確定に努める

(1) 共催の確認

岩鉦・地質学会の協調(共催)へ

(2) 秋田大学の説得: 11/22までに回答を待っているところ

評議員会前に久田行事委員長を秋田大に派遣(ご説明にあがる形)、

木村会長より、3学会協調のコメントを準備し、秋田大に発信

(3) 札幌大会準備活動とリンク

行事委員会担当業務について、確定した場合には秋田側に準備のための参加を提案する。

6. 2010以降大会開催候補地の選定

- ・年会開催地，支部回り持ちが2009年に一巡する
- ・2010年からの開催地について、回り持ちの堅持を再確認したが、開催可能拠点数に鑑みて、以下の通り隣接支部の共催を前提とし、5ブロックとする方向で検討する。
中部支部⇒関東⇒近畿+四国⇒東北+北海道⇒西日本
ただし、共催学会の都合もあるため、方針の確定前に協議することとし、秋田開催が確定した場合の共催を協議する段階で、地質学会の方針を含めて検討する協議委員会を行事委員会に設置し進めることとした
- ・開催場所も大学だけではなくコンベンション施設の使用を考える
- ・各支部に遅くとも開催3年前の3月までに開催地の正式決定をお願いする。できれば5年先くらいまで決定していることが望ましい。

7. 学術会議「イノベーション推進委員会」アンケート対応について（→ 資料参照 p. 29-33）
倉本理事に、ビジョン委員会報告を下に作成いただく。

8. 2008年度事業方針案について（→ 資料参照 p. 34-35）
原案に若干の修正を加えて確認し、これをもとに事業計画、予算計画の策定を開始することとした。

9. その他

12月評議員会の議題

- 1) 2008年度事業案, 予算案について
- 2) 日韓他の国際交流について
- 3) 札幌大会について
- 4) 情報化について
- 5) その他

以上

議事録署名人

⑩

⑩